

第9回(2014年度)名古屋マーケティング・インカレ開催概要

2014年4月20日

■ 開催意図

各マーケティングのゼミナールで研究していることを他大学の学生と議論をすることにより、より深みのある研究とする。そして、他大学の学生との交流を持つことで、新たな視点や知見、価値観を獲得することを目的とする。

■ 参加予定ゼミナール、参加条件

出場ゼミナール(予定:2014年4月19日現在)

	青木	秋本	大崎	太田	大塚	為廣	濱
ゼミ生数(総数)	12	17	27	41	12	25	19
学年	3	3	2・3	3・4	3	3	3
チーム数	4	3	5	5	4	5	4

※例年通り、出場する各チームが各々でテーマを設定し、それを教員が持ち寄ってブロック分けをする方式とする。

※出場するチームは、2014年5月23日までにエントリー・シート(別紙)に研究テーマ、研究概要、研究価値を明記し、指導教員に提出しなければならない。

※本年度も日経BP社のご支援を頂く予定である。インカレに参加するには学生諸君が『日経ビジネス』を定期購読していることが条件となる。

■ スケジュール(2014年度版)

4月初旬

- 学生に対して運営方法を説明
- 学生委員の選出(各ゼミ2~3名)
 - ☞ 各教員は学生委員の選出をし、当該学生の氏名・メールアドレス・携帯番号(任意)を5月7日までに大塚先生に連絡(jubilotte@icloud.com)。大塚先生がこれを各教員にフィードバック。
 - ☞ 以後は学生委員がすべてを自主的に運営する。
 - ☞ まもなくインカレのHPができる予定なので、HPを活用すること。

5月23日

- エントリー・シート締め切り
 - ☞ ここまでにエントリー・シートを提出しないと、インカレに参加できないので注意すること。
 - ☞ その後、各教員が回収したエントリー・シートを持ち寄り、インカレのブロック分けをする。

7月6日(日)

- 第1回中間報告とコンパ（愛知淑徳大学星ヶ丘キャンパス）
 - ☞ 愛知淑徳大学大塚ゼミが主催（当日は開催校に感謝し、指示に従うこと。）
 - ☞ コンパの欠席は、原則的に認めない。やむを得ず欠席する場合は、正当な理由を指導教員に直接申し出ること。
 - ☞ 報告は15分、質疑応答5分とする。（時間厳守：発表時間を過ぎた時点で強制的に報告は終了。質疑応答も5分を上限とする。ラスト2分以降は質問は受け付けない。）
 - ☞ 報告で用いる資料、プリントは、各チームでブロックの人数分を用意すること。開催大学は印刷を行なわない。
 - ☞ 車での来場は禁止。また当然ながらコンパでの一気飲み、飲酒の強要は禁止。さらにコンパ会場のトイレを汚さないこと。これらのルール違反をしたゼミは、その時点で今年度および次年度のインカレ出場権が剥奪される。

10月(決まり次第報告)

- 第2回中間発表会～親睦会（コンパ）（愛知学院大学名城公園キャンパス）
 - ☞ 愛学青木ゼミ、秋本ゼミが主催（当日は開催校に感謝し、指示に従うこと。）
 - ☞ コンパの欠席は、原則的に認めない。やむを得ず欠席する場合は、正当な理由を指導教員に直接申し出ること。
 - ☞ 報告で用いる資料、プリントは、各チームでブロックの人数分を用意すること。開催大学は印刷を行なわない。
 - ☞ 車での来場は禁止。また当然ながらコンパでの一気飲み、飲酒の強要は禁止。さらにコンパ会場のトイレを汚さないこと。これらのルール違反をしたゼミは、その時点で今年度および次年度のインカレ出場権が剥奪される。

12月6日(土)

- 発表会～打ち上げ（コンパ）（愛知大学名古屋キャンパス（ささしま））
 - ☞ 愛大為広ゼミ、太田ゼミが主催（当日は開催校に感謝し、指示に従うこと。）
 - ☞ 早朝より開催。
 - ☞ 午前に予選、午後からは日経BP社の講演会と決勝戦を行なう。
 - ☞ コンパの欠席は原則的に認めない。やむを得ず欠席する場合は、正当な理由を指導教員に直接申し出ること。
 - ☞ 報告で用いる資料、プリントは、各チームでブロックの人数分を用意すること。開催大学は印刷を行なわない。
 - ☞ 車での来場は禁止。また当然ながらコンパでの一気飲み、飲酒の強要は禁止。さらにコンパ会場のトイレを汚さないこと。これらのルール違反をしたゼミは、その時点で今年度および次年度のインカレ出場権が剥奪される。

確認事項

- 今年度は、「日経特別賞」、「学生賞」、「新井賞」を設定する。
- 中間報告、本大会で用いるスライド（PPT）は、各チームがデータを持参すること。チーム・メンバー全員がデータの共有をすることが望ましい。もし、当日のデータのトラブルで映写に支障が生じた場合の責任は、全て発表チームが負うものとする。
- 2 回行なわれる中間報告会においても、ブロック内で学生同士がチームの評価をする。評価シートを作成する目的は他のチームの研究を理解すること、および懇親会の席で他のチームと研究について議論する材料にすることである。そのことを踏まえて評価シートを書くように。
- 中間報告、本大会ともにブロック内のメンバーはシャッフルされる。すなわち、いつも違った相手と討論する。
- 中間報告、本大会ともに、報告内容、議論の過程の議事録をブロックごとに学生が作成し、それをHPにアップする。入力仕方など、入力フォームが完成した時点でお知らせする。
- 例年、中間、決勝ともにタイム・マネジメントが上手くいかない。今年度は報告時間を過ぎた時点で司会者が強制的に報告を終了させること（発表途中でも関係なく、司会者が責任を持って発表を打ち切ること）。質疑応答についても同様。なお質問時間のラスト 2 分以降は質問は受け付けられないこととする。
- 時間切れで報告が打ち切られたチームを失格とはしないが、評価者は時間内に報告が収まらなかったことを踏まえて厳しく採点すること。
- 本大会は予選でブロックごとに評価し、そのブロックで一番多くの得点を獲得したチームが決勝戦に進出するのは例年通りであるが、ブロック内で評価が同点だった場合は、2 位の評価を多く獲得したチームが決勝に進出する。2 位も同点だった場合は、3 位の評価を多く獲得したチーム、3 位も同点だった場合は・・・とする。
- 同じゼミ、同じ大学のメンバーを学生が評価する際は、あえて厳しく評価すること。
- インカレに参加するメンバーを互いに尊敬すること。研究アプローチの違ったチーム同士、理解しあうこと。また、研究アプローチの違いも含めて、相手に納得させるプレゼンテーションを行なうこと（学生に分かるようにと、研究のレベルを下げた発表をしないこと。難しいことを分かりやすく伝えるように。）インカレ参加の学生諸君は仲間であり、能力もすべて同等である。
- インカレ以外でも、ゼミ間の交流を積極的にもつ。通常のゼミにおいても、学生、教員の行き来をしていきたい。
- 教員間、学生間での挨拶を交わせるような関係性の構築を目指す。

以上